

霞ヶ浦導水事業の検証に係る検討報告書について

私は今現在埼玉県蓮田市に住んでいますが、生まれ故郷は茨城県水戸市です。那珂川を眼下に望む高台、導水事業の取水口から僅か数キロ程の場所です。導水事業は建設開始時から、実家から近い事もあり、工事の進捗を見て来ましたが、事業の内容については良く知らずにいました。事業内容を詳しく知ったのは、地元漁協が建設反対を唱えているとの話を聞いてからの事です。霞ヶ浦の水質浄化の為に、那珂川の水を引いて行って希釈するという事ですが、それは一時しのぎにしかならないし、根本的な解決にはならないでしょう。それどころか、相互に水をやりとりするという事ですから、霞ヶ浦の水を那珂川に入れるということになる。今現在、アメリカナマズやブラックバス、ブルーギル、レンギョ、ソウギョ、アオウオなど、外来魚の巣窟となってしまっている、しかも富栄養化が進んでいる水を引く事は、那珂川にとって大変危険な事です。そのことに1,900億を使うとはどう言う事でしょうか？。本来利根川水系の一部である霞ヶ浦に、遠く離れた那珂川水系の水を長い距離を送る発想が理解出来ません。利根川水系の中でやりくり出来るのでは無いでしょうか。

霞ヶ浦の汚染源を絶つ事をしなければ、いつまで経ってもきれいにはならない。それどころか那珂川の生態系に多大な影響を与える結果となります。諫早湾の干拓事業や長良川河口堰の竣工後の環境への悪影響を考えると、同じ様に、霞ヶ浦導水事業も、那珂川漁協の皆さんの懸念している鮎の生態系への影響や、涸沼のシジミへの影響は必ず出ます。生態系全体へも悪い影響が出るでしょう。

子供の頃から慣れ親しんできた那珂川ですが、全国の河川湖沼が、高度経済成長期に汚染されて来た例に漏れず、やはり汚れて来ました。背骨が曲がった魚が釣れる事も有りました。遺伝子を痛める化学物質汚染が有ったのだと思います。今も、魚影は少なくなり、水質も落ちています。霞ヶ浦は、1963年に、常陸川水門が完成し、淡水化、水がめ化が始まってから急激に水質悪化が進みました。自然のサイクルを人間が止めた事によって流水の自浄作用が働かなくなり、流入河川や農業用水からの磷や窒素などの栄養塩がたまって富栄養化が急速に進みました。

霞ヶ浦の浄化には、アサザプロジェクトなど、地元の環境ボランティア団体が取り組んでいる生態系復旧活動や提案を支援する事、流入河川の流域自治体の下水道普及率向上や、塩分流入量に配慮した計画的な水門開放を行うなど、多様な取り組みを持続する事が大事だと思います。

島根県の宍道湖・中海淡水化事業は、水質悪化への懸念から、地元の反対の声が高まり、関連施設の建設が全て終わった後に中止になりました。事業費851億円だったそうです。出雲神話の湖は、生態系への影響をまぬがれ、水質も保たれて、昔のままの景観で今日に至っています。

日本の自然環境は国民の財産です。万葉集にも歌われた那珂川も、これ以上の環境悪化は受け入れられません。霞ヶ浦導水事業は今すぐ中止してください。